

## R5 ‘学校評価アンケートの傾向及び自由記述内容整理（※ChatGPT 使用） R6.3.25

### <教員>

○択肢による回答では、特に以下の設問で顕著な傾向が見られた。

- ・とてもそう思う：設問 3（58.3%）、設問 8（58.3%）、設問 10（75%）において、半数以上の回答者が、この選択をした。これらの設問内容に対して、教職員の肯定的な意見が多い。
- ・ややそう思う：全体的にこの択肢が最も多くの回答を集めました。教職員は肯定的ではあるが、完全には賛同していない。
- ・あまりそう思わないとそう思わない：これらの択肢は全般に少なく、特に「そう思わない」は非常に少ない回答。しかし、設問 5、17、21 では否定的な意見が比較的多く見られた。

○自由記述回答では、特に多くの意見が寄せられた設問として、問 22、問 30、問 38 が挙げられる。

以下は、これらの設問に対する教職員の意見や提案の要約。

- ・問 22：アンケートの実施時期や内容について、より計画的なアプローチが求められている。特に、次年度の予算や計画に反映しやすい時期に実施することや、質問内容の事前相談の重要性を指摘。
- ・問 30：防災訓練に関して、事前学習の徹底やデジタル化の推進、様々な状況を想定した訓練の実施など、具体的な改善提案があった。
- ・問 38：スケート指導時の安全対策として、インストラクターの必要性や事前指導強化が提案された。

<まとめ>アンケートからは、教職員が学校運営や教育活動に対して具体的かつ実用的な提案を多数持っていることが明らかになった。これらの意見や提案は、今後の学校運営の改善に有益な情報を提供している。特に、計画的なアンケート実施、防災訓練の質の向上、安全教育の強化など、教職員からの具体的な提案に基づいて、学校運営の各側面を見直し、改善していく。

### <保護者>

○ポジティブな意見（6つ）

1. 課外クラブ：運動系のクラブが増えることへの期待。
2. 学童保育：18:30 までの延長が働く親にとってありがたい。
3. 給食：美味しく、国産や無農薬野菜の使用が安心できる。
4. スクールバス：便数が増えたことへの感謝。
5. 先生方の熱心な指導：日々の指導に満足し、感謝している。
6. 家庭と学校の協力：家庭で協力できることがあれば積極的に参加したい。

○ネガティブな意見（6つ）

1. 教員の指導力：指導力の向上が求められ、一部の教員の振舞いが不適切に感じられた。
2. 制服のサイズ問題：女子の制服が体型に合わないため、見直しを希望。
3. スケート教室の安全性：怪我があったことに対する見直しを要求。
4. 給食の内容：揚げ物が多く、栄養バランスに疑問を感じる意見。
5. タブレット学習の過度な使用：漢字の学習には鉛筆を使うべきだとの意見。
6. 学級通信の頻度：担任により差があり、保護者にとって貴重な情報源なので頻度改善を求める。

<まとめ>これらの意見は、学校の教育方針や施設、先生方の指導方法、そして学校生活の質に関する保護者の期待と懸念を示している。ポジティブな意見では、学童保育の延長や給食の質に対する満足感が強調されているが、ネガティブな意見では、教員の指導力や安全性への懸念が目立つ。学校側は教育環境の改善に向けて具体的な対策を講じる必要がある。

○保護者アンケートから、子供を心配する内容を含む回答を抜粋。

1. スケート教室の安全性：短時間で複数の怪我人が出たことへから、安全対策・事前講習の要望。

2. 教員の指導方法：児童への呼び方、注目を集めずに指示を出す、授業中に一部の児童と雑談するなど、教員の指導方法に対する懸念。
3. 子供の通学路の安全：大きな車道を歩かせたくない、朝、青い門を開放してほしい安全への配慮。
4. 体育の授業内容のばらつき：発達段階に応じた運動能力を身に付けられる環境への希望。
5. 友達付き合いに悩む子供：友達付き合いに悩む子への心配と、メンタルの強化への望み。
6. いじめや暴力：子どもどうして叩いたり蹴ったりする動きをよく見かける。遊びだとしても、殴る蹴る（動作）はトラブルの原因になるという心配。

＜まとめ＞これらの抜粋は、保護者が子供の安全、教育環境、心理的な健康に深い関心を持っていることを示している。特に安全対策、教員の指導方法、友達関係、いじめ問題に対する心配が目立つ。学校側に対して、子供たちが安心して学び成長できる環境についての改善要望として捉える。

## ＜児童＞

### ○ポジティブな意見

1. プログラミングの授業導入：プログラミングは重要であり、将来に役立つスキルだから導入希望。
2. 行事の増加：楽しく遊べる行事を増やして、児童の交流と学校生活の楽しさを向上させる。
3. 明豊中・高校との交流：異年齢層との交流を通じて、中・高生活を理解し人との関わりを深める。
4. 異学年との協力的行事：異なる学年同士が仲良くなるための行事を増やすことで、社会で役立つ人間関係のスキルを育む。
5. 校外学習の回数増加：校外での学習を増やして実世界での経験を通じて学習内容の理解を深める。
6. 信頼できる安全な学校環境：学校環境を改善し、全児童が居心地良い場所で学べるようにする。

### ○ネガティブな意見

1. 無責任な行動の是正：無責任な行動は他人に迷惑をかけるため責任を持った行動を心がける必要。
2. いじめの撲滅：いじめは学校生活を不快にする主因であり、無くすと学校がより良い場所になる。
3. 授業中の騒音問題：授業中に騒ぐことは学習の妨げなので、静かに授業に集中させることが大切。
4. 教師の言動の改善：児童に対しての教師のより適切な言動を求め、よい教師の採用を希望。
5. 問題行動の対応：授業の妨げとなる児童の行動は早期対処し、授業環境改善する必要がある。

＜まとめ＞これらの意見は、児童たちが学校生活において価値を見出している点や、改善を望む課題を反映している。ポジティブな意見は、学習機会の拡大や交流の促進を通じて学校生活の充実を目指すものが多く、ネガティブな意見は主に学習環境や人間関係の改善を求めるものが含まれる。これらの意見を基に、学校側はより良い教育環境を整えるための施策を検討することが重要。

### ○リスクがあると心配される回答（学校生活や安全、精神衛生に関連する潜在的な問題点）

1. いじめがなくなる：いじめは児童の精神的健康に深刻な影響を及ぼし教育環境の質を低下させる。
2. 乱暴な言葉を使う先生がなくなる：教師の乱暴な言葉は児童の心に悪影響を与え信頼関係を損なう。
3. 授業中に騒ぐことについて：授業中の児童の騒ぎは、他児童の集中と学習成果に悪影響を与える。
4. 廊下を走る人について：廊下での走行は身体的安全リスクを高め、怪我の原因になる。
5. 朝休みを復活させる：休憩時間の不足は児童のストレスを増やし集中力や学習効率の低下を招く。
6. 宿題のドリルなどがたくさんあって重たいので、宿題は全てデジタル化する：デジタル化は利点が多いものの、スクリーン時間の過剰な増加やデジタルデバイスのアクセス不平等が心配される。

＜まとめ＞これらの心配事項は、学校側が対策を講じるべき重要な領域を示している。安全な学習環境の提供、教師と児童の間の健全な関係の促進、経済的障壁の軽減、そして児童の精神衛生のサポートなどが含まれる。

以上のことを次年度、◎即改善、○検討し改善、△意見として拝聴、×実施不可能で整理し、生かす。